

〈史料紹介〉

稲垣長賢「貴族院代表鮮滿皇軍慰問団」日記

長谷川 怜

はじめに

本史料は、一九四三年（昭和十八年）五月十七日～六月十四日まで約一か月にわたって行われた「貴族院代表鮮滿皇軍慰問団」の日記（以下、慰問団日記）である。日記はB6版程度のノートに万年筆で書かれており、総ページ数は一四二ページである。

この慰問団の派遣は一九四三年四月十九日に開かれた貴族院各派交渉会において、八名十名で構成すること、一週間以内に各派で派遣議員を選出すること、一か月にわたり満洲の「国境を主に在滿皇軍全部隊の慰問を行ふこと」を決定した^①。翌週、貴族院内での打合せ会を経て出淵勝次を团长、土岐章を副团长とし、蜂須賀正氏、稲垣長賢、高崎弓彦、山根健男、洪沢金蔵の七名に書記官一、属一を加えた九名を派遣することとなった。慰問団は満洲駐屯の関東軍部隊の訪問・療養中の「白衣の勇士」すなわち傷病兵の慰問を行うだけでなく、満洲経営に関わる機関・組織等の視察も同時に実施し

た。地図（次頁）の通り朝鮮半島を経て満洲に至り、北満洲を中心に広範囲を巡る旅行であった。

日記を執筆したのは稲垣長賢（一八八九—一九八二）である。稲垣は一八八九年（明治二十二年）、旧鳥羽藩の稲垣家に生まれた^②（本籍地は東京市）。一九二四年（大正十三年）に東京農業大学を卒業後、農林省畜産試験場助手や山形県農林技手を務めた後、社団法人養鶏組合中央会技手・輸出鶏卵検査員・理事などを歴任した。一九四〇年（昭和十五年）に子爵を襲爵して稲垣家当主となり、一九四二年に農林省嘱託となった後、一九四三年一月の貴族院補欠選挙で互選され議員となった（研究会所属）。戦後は全日本チャボ保存協会副会長や社団法人日本養鶏協会顧問を務めるなど、養鶏の専門家であり著書も多い^③。

稲垣家関係史料の概要と慰問団日記発見の経緯

鳥羽藩稲垣家に関する史料の大部は、鳥羽市立図書館および明治

大学が所蔵している⁽⁴⁾。それぞれの史料群の来歴は異なるものの多くが藩政文書や書状などである。前者には稲垣家当主の肖像画や花押の型なども含まれており、充実した内容の史料群といえるであろう。

筆者（長谷川 怜）は稲垣家の子孫である稲垣長利氏ながしからご自宅に保管されている稲垣家史料のことを伺い、二〇一五年（平成二十七年）四月に調査のためお邪魔した。史料群の内容を大別すると戦国時代〜近世の写本や家譜、近代以降の稲垣家文書、稲垣長賢関係文書、稲垣長賢収集絵葉書等である。これらのうち、稲垣長賢関係文



図① 貴族院代表鮮満皇軍慰問団日記



図② 慰問旅行行程地図（筆者作成）

書には日記やスケッチのほか襲爵時の書類や貴族院研究会関係の書類などが含まれていた。

史料群の散逸を防ぎ長く保存したいという長利氏の意向を受け、七月に学習院大学史料館の長佐古美奈子氏と再度稲垣家を訪問、近代の文書を同史料館へ寄贈して頂くこととなった（近代以外の史料は鳥羽市立図書館へ追加寄贈の予定）。

満洲慰問団に関する史料としては、今回紹介する日記以外にも「傷病兵慰問貴族院議員団日程 貴族院代表鮮満皇軍慰問録（昭和



図③ 慰問旅行関係ファイル

十八年五月」と名付けられた書類ファイルが存在する。このファイルには、慰問団の派遣にあたって関東軍内部で作成された連絡書類の写しや日程表、稲垣の履歴書、現地で宿泊したホテルのラベルや領収書、観光パンフレット、関東軍司令官（梅津美治郎）や満洲国総務長官（武部六蔵）からの晩餐会招待状などが貼り込まれている。他、帰国後に原稿用紙へ浄書した旅行の記録も綴じられている。慰問団日記とファイルの旅行記録はほぼ同じ内容であるものの、浄書の際に省略された部分もあるため史料紹介には慰問団日記を用い

ることとした。なお日記中、文字が不鮮明で判読できない人名等については適宜ファイルの浄書版を参照した。また、稲垣が山形県庁時代（一九二八年ごろ）から戦後の一九四七年まで継続的に描き続けた画帳「道づれ」（稲垣家所蔵）には数枚の朝鮮・満洲のスケッチが含まれている。学習院大学史料館に寄贈された史料群については、二〇一六年三月現在筆者が整理・目録作成を行っており、完了した後に公開される予定である。

*史料紹介の執筆は、日記が史料館に寄贈される以前に長利氏からご許可を頂いた。



図④ 「道づれ」収録スケッチ（稲垣家所蔵）

貴族院議員の満洲・中国視察

個人の満洲・中国旅行や探検、軍人による調査旅行を除けば、満洲視察旅行が行われるようになるのは日露戦争の最中である。これらの旅行はメディア関係者や一般の人々を対象として実施された。また日露戦後には中学校や高校において満韓修学旅行が行われたり、教員を対象とした視察旅行が実施された。⁵⁾

議員による満洲旅行は日露戦争の観戦を目的として企画され、一九〇四年（明治三十七年）四月に「貴衆両院議員には従軍を許可：満洲及朝鮮の視察を兼ね従軍を願ひ出る者已に四五十名の多数：」と報じられた。この計画はすぐには実施を見ず、日露両軍の戦闘がほぼ膠着状態となった後、一九〇五年五月二十五日の京釜鉄道開業式と合わせて行われた。貴族院からは柳澤保恵など約三十名、衆議院からは江原素六など約百名が参加し、新聞によれば義州および大連を経て戦地視察を行い、さらには北京方面にも足を延ばした議員もいたようである。貴族院単独での大陸視察旅行は、柳澤保恵や水野直など研究会所属議員らが一九二二年（明治四十五年）六月に行つたものが嚆矢である。以後、貴族院の大陸視察は複数回にわたりに行われたが、満洲事変および日中戦争勃発以降は「皇軍慰問」という形で活発化した。会派ごとに行われる場合もあれば、各派交渉委員会を開き人選を行つた後に各派から数名づつ派遣することも多かった。

貴族院では満洲や中国に限らず、樺太や南洋といった日本の植民地やフィリピンなど日本人が多く進出する地域への視察を行つてお

り、その行程や参加者に関してはその都度新聞紙上で報じられている。また、帰国した議員による午餐会での報告が「貴族院彙報附録」として配布されていることもあるが、視察（慰問）の詳細をまとめた記録は存在しない。さらに、従来の研究において貴族院議員の海外視察に触れたものは管見の限りほとんど見当たらない。今回紹介する日記は、貴族院の有力会派である研究会所属議員が自ら筆記した記録であり、これまで知られてこなかった海外における貴族院議員の活動の一端を伝える重要史料であるといえよう。

なお、この慰問旅行の記録は今紹介する稲垣の日記の他に、書記官として参加した寺光忠によるものが存在するが、今回の史料紹介に際しては稲垣日記との対照等を行っていない。⁹⁾

本史料について

本史料（慰問団日記）は、出発から帰国するまで二九日間にわたる慰問旅行について細大漏らさず記録したものである。全旅程の移動区間および発着時刻、移動距離なども示されており、慰問旅行がハードなスケジュールで行われたことが分かる。ロシア料理を堪能したり、湯岡子温泉で温泉に浸かったりと、娯楽の時間もあつたとはいえ、スケジュールのほとんどは軍関係病院や部隊慰問、開拓団訪問、重工業施設見学、満洲国側要人との会談などで構成されている。本文中には、訪問場所についての概要、地誌、沿革のほか、様々なデータが記載される。また巻末には「満洲国ノ畜産」として膨大なデータと畜産の状況などが記録され、畜産業・農林業に精通した稲垣の姿を垣間見ることができ（ただし、該当箇所について

は紙幅の関係上省略)。その他、現地で見聞きした様々な情報―満洲の民族分布や文化、言語など―のメモもあり、満洲の文化史・風俗史の観点からも興味深い内容となっている。また、最も長く滞在した満洲国の首都・新京(「長春」)のインフラ整備や開発の状況などは克明に記されており、いわば満洲経営の「最前線」で進む開発について稲垣が並々ならぬ関心を抱いていたことが分かる。

本史料における重要な部分は、現地における要人との懇談内容がまとめられている点である。慶尚南道や朝鮮総督府における関係者との会談では朝鮮半島の農業の問題点や、皇民化政策上の課題などが語られた。また、新京における武部総務長官等との会談では関東軍と満洲国との関係性や満洲国「国民」の対日感情、また対日輸出の展望などが話題になっている。旅行記中のメモであり、要点をかいつまんだものとはいえ、当該期の満洲国の内実や日本の満洲経営の一面を現在に伝えるとともに貴族院議員という政策主体側にある人物が、満洲問題や大陸政策をいかにとらえていたのかを記録した貴重な史料といえるであろう。

〈凡例〉

- ・ 翻刻に際しては旧漢字を現用漢字に改めた。
- ・ 適宜句読点を補い、原史料の改行は一部省略した。
- ・ 変体仮名を使って記述してある箇所は現用の仮名におきかえた。
- ・ 紙幅の関係から、稲垣自身による見聞ではない部分(訪問場所に関する人口や予算額など本日記の記載によらなくとも得ることのできる基礎データ等)については一部を省略した(省略項目は斜

体で示した)。

・ 史料中、重要と思われる事項や解説の必要な地名・人物等に関しては注で補足を行った。

・ 史料中には現在の観点からすると差別的な表現や適切ではない語句が含まれるが、歴史史料であることから原文ママとした。

史料翻刻

昭和十八年五月

貴族院北滿皇軍慰問団

団長 出淵勝次

副団長 子爵 土岐章

侯爵 蜂須賀正氏

子爵 稲垣長賢

男爵 高^{ママ}

昭和十八年五月

貴族院代表鮮滿皇軍慰問団

団長 出淵勝次¹⁰

副団長 子爵 土岐章¹¹

侯爵 蜂須賀正氏¹²

子爵 稲垣長賢

男爵 高崎弓彦¹³

男爵 山根健男¹⁴

渋沢金蔵¹⁵

同行 貴族院書記官 寺光忠¹⁶
同属 海保勇三

慰問行程

車中泊 五月十七日 二二時一〇分 東京駅発 下関行普急

船中泊 十八日 一九時四五分 下関駅着

二〇時〇〇分 下関発

車中泊 十九日 五時五〇分 釜山着

九時一五分 釜山発

一二時一〇分 鎮海駅着

一八時一〇分 鎮海駅発

一九時四四分 三浪津着

二一時〇八分 三浪津発

車中泊 二十日 七時五五分 京城駅着

京城駅発

新京滿蒙ホテル泊 二十一日 二〇時一〇分 新京駅着

車中泊 二十二日 八時〇〇分 新京駅発

一〇時二八分 吉林駅着

一八時三〇分 吉林駅発

車中泊 二十三日 五時〇八分 図們駅着

五時一八分 図們駅発

一一時四〇分 牡丹江駅着

車中泊 二十四日 二三時〇〇分 牡丹江駅発
八時三四分 東安駅着 二等車専用

佳木斯三光ホテル泊 二二時五六分 東安駅発
二十五日 五時〇八分 林口駅着

七時三〇分 林口駅発

一二時一〇分 千振駅着

一六時四二分 千振駅発

一九時〇〇分 佳木斯駅着

車中泊 二十六日 十一時五〇分 佳木斯駅発

十四時四四分 鶴岡駅着

一六時三〇分 鶴岡駅発

一八時五五分 佳木斯駅着

一九時二〇分 佳木斯駅発

ハルビン大和ホテル泊 二十七日 六時三〇分 牡丹江駅着

一二時五〇分 牡丹江駅発

二三時三二分 哈爾濱駅着

車中泊 二十八日 二三時〇〇分 哈爾濱駅発

黒河 常盤屋泊 二九日 一九時五六分 黒河駅着

車中泊 三十日 一〇時三〇分 黒河駅発

ハルビン大和ホテル泊 三十一日 八時一分 哈爾濱駅着

車中泊 六月一日 一〇時四〇分 哈爾濱駅発

ハイラル大和ホテル泊 二日 一三時一五分 滿洲里駅着

一五時一五分 滿洲里駅発

一九時二八分 海拉爾駅着

車中泊 三日 一九時 海拉爾駅発
 新京第一ホテル泊 四日 一五時三四分 哈爾濱駅着

第一ホテル泊 五日 新京滞在
 第一ホテル泊 六日 新京滞在

第一ホテル泊 七日 新京滞在

湯岡子温泉泊 八日 八時三〇分 新京駅発

一三時五十分 奉天駅着
 一四時二〇分 奉天駅発
 一五時四三分 撫順駅着
 一八時〇五分 撫順駅発
 一九時二三分 奉天駅着
 一九時五〇分 奉天駅発
 二二時二三分 湯岡子着

新京第一ホテル泊 九日 八時一三分 湯岡子駅発

八時三六分 鞍山駅着
 一四時四九分 鞍山駅発
 二〇時四〇分 新京駅着
 一四時五〇分 新京駅発
 一五時〇五分 清津駅着(自動車)
 一五時五八分 朱乙着

車中泊 十日 一四時五〇分 新京駅着
 車中泊 十一日 一二時一〇分 清津駅着(自動車)
 一五時〇五分 羅南着(自動車)
 一五時五八分 朱乙着

車中泊 十二日 〇時一五分 朱乙駅発
 二〇時一八分 京城駅着

車中泊 十三日 二一時〇〇分 京城駅発
 七時五五分 釜山着

八時三〇分 釜山駅発(船泊)
 二〇時〇〇分 下関駅着
 二一時〇五分 下関駅発(富士)

十四日 一五時二五分 東京駅着

東京—下関—釜山—(鎮海)—三浪津—(京城)—(新京)—(函們)—(牡丹江)—(東安)—(林口)—(千振)—(佳木斯)—(鶴岡)—(佳木斯)—(牡丹江)—(哈爾濱)—(黑河)—(哈爾濱)—(滿洲里)—(海拉爾)—(哈爾濱)—(新京)—(奉天)—(撫順)—(奉天)—(湯岡子)—(鞍山)—(新京)—(清津)—(羅南)—(朱乙)—(京城)—(釜山)—(下関)—(東京)
 日程 二九 宿泊 一二 車泊 一五 船泊 二

五月十七日

東京発 下関普通急行 二等寝台。車中一泊

五月十八日

下関駅着 乗船 一等寝台泊。船中一泊

五月十九日

釜山着。

鉄道ホテル楼上ニ於テ慶尚南道内務部長一杉藤平氏等卜朝食(洋)ス。国幣小社龍頭神社(天照大神、国魂大神、大物主神)参拝。撰

釜山の人口 三十万人。内六万人が内地人。

社龍尾山神社参拝。魚市場視察。釜山駅ニテ休憩。鎮海駅着。

鎮海司令長官（後藤中将）訪問。水交社ニ於テ長官招宴（午食洋）。鎮海々軍病院慰問。

療養旁々勤務シテキル。

五月二十日
京城着。

（一杉内務部長談）

本年ノ作柄ハ矢張乾燥続キデ思ハシクナイ。麦モ同様デアル。最近仏印カラ米ノ入荷ガアツタ。増産ニ対シテ未ダ島民ノ気分ガ参戦気分ガ充分デナイノデ思ハシクナイ。内地向労働者ハ約十三万人デ別ニ抑制ハシテキナイガ、密航者ガ多ク内地ヨリ返送サレルモノモ可成アル。大阪ノ人口ノ一割ハ朝鮮人デアル。朝鮮人ハ地位ヲ得ル為努力スルガ一度其ノ目的ガ達セラレルト其レ以上ハ努力シナイ。内地人トノ結婚問題ニ付テハ鮮人ノ女ハ内地人ニハ向カナイ。内地ノ女ハ貞操觀念ニ乏シクダマサレル者ガ多イ。適當ナル分散移民ヲ行ヒ内地人ノ定着ヲ講ズル必要ガアル。

鎮海々軍病院

収容人員ハ百名ニ滿チナイ。設備ハ尚沢山ニ収容シ得ラレル。大体此ノ附近、羅新、旅順ヨリノ兵バカリ。大正五年ヨリ院長十一代名。場所トシテハ理想的デアル。疾患トシテハ内科のガ主デ胸部疾患ハ四六%。看護兵ノ中ニモ胸部病患者モ居リ

京城陸軍病院。明治四十年京城陸軍病院トナル。呼吸疾患ガ矢張り

多イ。胸膜炎二十五名、戦傷者三名デ平時患者ガ多イ。現在七〇〇

名。内南方カラノモノ四六名。滿支カラノモノ七―八名。独歩患者

又ハ日曜日ノ職員ヲ利用シテ菜園ヲ作ラレテキル。

京城ニ於ケル日程

七時五五分 京城駅着 朝鮮ホテルニテ朝食

一〇時三〇分 朝鮮神宮参拝

一〇時三〇分 陸軍病院慰問

一一時三〇分 軍司令官（不在）邸訪問

一二時〇〇分 軍司令官招宴（官邸洋）

一三時三〇分 朝鮮總督府訪問。總督不在。田中政務長官ト懇談

軍司令官邸ニ於ケル懇談

朝鮮ノ配米ハ最初一合ノモノヲ一合五勺トシ五月カラハ尚増加シテ一合八勺トシタノデ民ガ官ヲ信賴ル様にナツタ。鮮人労働者ノ内地へ出向ク者ハ十六万人位デアル。鮮人労働者ハ欠勤ガ多ク、集団の不平ヲ言フ。移動ガ甚シイ。為ニ不評デアル。

朝鮮ノ人口ハ約二千万人。内七二万人ガ内地人。

（官邸応接室ニ黒田清輝画伯ノ額。ロシヤ風ベーチカ類似ノゲラン

デガ光彩ヲ放ツ)

朝鮮總督官邸ニ於ケル田中政務長官談

皇国民化ノ問題。徵兵制ニ関スル問題―体格ハ内地人ニ劣ラナイ。

志願兵訓練所卒業者ハ優秀者ガ多イ。鮮人ハ一般ノニ技術方面デハ
医者トシテ相当成功シテキルモノガアル。手先キモ器用デアル。道
義水準ガ低クイ。将来大イニ高メル必要ガアル。

貯蓄問題―定期預金百円ニ対スル富クジ一万円(二十万本二一)
但シ一ヶ年スエ置。昨年ハ九億円、本年ハ十三億。

漢口ノ鉄橋ハ小田技師ノ設計ニカ、ル最新式ノモノニテ鴨綠江ノモ
ノモ同様。

五月二十日 新京着

防空演習中ニテ断水。

五月廿一日 吉林省

満洲国建設局ノ自動車デ豊満ダム視察。満洲国ノ地勢ハ東南部ハ白
頭山系、北ニハ興安嶺、西北ニハ大興安嶺ノ大山脈ガ馬蹄型ニ連互
シ其ノ中央部ハ一大盆地ヲ形成、大部分ガ松花江ト遼河ノ二大河川
流域ニナツテキル。

満洲国ノ雨量ハ割合ニ少ナイ。一ヶ年九〇〇耗―三〇〇耗(日本ノ
三分一ニモ当ライ)

季節ノ二雨量ノ差ガ甚シイ。一ヶ年間ノ総雨量ノ約七〇%ガ大体七、
八ノ両月間ニ集中シテ降ル(満洲雨季)。

流量ニ季節ノ変化ガ甚シイコトガ満洲河川ノ最悪ノ特異性デアル。

松花江デハ齊々哈爾―哈爾濱間勾配二万分ノ一。遼河下流ガ七千
カラ一万分ノ一。故ニ二期ニ於テ中央部盆地ニ帯水シ洪水トナル。

河川利用ニハ貯水池式ニヨリヨリ方法ガナイ。上流荒地ニ膨大ナル
貯水池ヲ設ケテ二期ノ過剰水ヲ溜メ一ヶ年間平均シテ流水セシメ、
水力發電ヲ起シ同時ニ灌溉利用、航運ニ資スル。右方法ニヨリ水力
開発ヲスル場合ニハ(一キロワット当リ建設費三〇〇円以下ノ地
点)

第二松花江 二〇〇万キロワット
鴨綠江 二〇〇万キロワット
其ノ他 三〇〇万キロワット } 計七〇〇万キロワット発電可能

第二松花江ハ其ノ源ヲ白頭山天地ニ発シ、幾多ノ支流ヲ合シテ五〇
〇軒、吉林ノ稍上流ニ於テ山嶽部ト絶縁、北滿ノ大畝原ニ現ハレ出
デ北走又五〇〇軒、大松花江ニ合スル。

吉林上流ニ於ケル流域面積ハ利根川ノ約三倍。満洲国最大量ノ雨量
地域デ、大半ハ密林地帯。至ルトコロ大溪谷デ絶好ノ堰堤箇所羅列
スル。有利低廉ナル大發電地点ニ富ムコト此ノ右ニ出ズルモノナシ。
吉林第一発電所

紅石礮子
濛江
于牛威子 } 計一七五万キロワット発電計画
安図
東園子

献立

一、吸物 匂ひす
みれ(野草)の
すまし汁

一、向付 現地ふ

ぐ(ウスリー
産)料理、花あ
やめ(野草)、

きょうり(官邸
産)

一、口代り とま

き(野草)のこ
ま合へ、山芋
(密山産)の茶

巾しぼり

一、鉢魚 鮒(ウ
スリー産)の唐

揚げ、たんぼ、
の甘醋

一、小鉢 男よも
ぎ(野草)ののり

卷

一、煮物 わらび、
里芋(西東安

産)、西洋松た
け(密山産)炊

合せ

一、お椀物 あか
ざ(野草) つみ

入れあかし
一、香物 きょうり、
二十日大根(官

松花江水力電気第一発電所

(吉林豊満堰堤)、(堰堤地質)、(水量)、最近五ヶ
年間ノ堰堤地調査、(貯水池)、(堰堤)、(混泥土
容量)、(発電及設備)、(水車)、(発電機)、(水利、
治水)《省略》

(其他諸計画)

京吉高速電車

新京—吉林間、距離約百料、一時間

松花江ノ運河化

五月廿三日

十一時四〇分 牡丹江駅着(第二部隊自動車)

一二時二〇分 第一部隊慰問 部隊長内山中将

一三時〇〇分 昼食部隊(部隊長)

一三時一〇分 第五七部隊慰問(工、輜)

一三時二〇分 官邸記帳

一三時三〇分

一四時一〇分 第四六一九部隊慰問

一四時三〇分

一五時一〇分 第六三二部隊慰問

夕食 三井物産招宴(個人的。蜂須賀侯ト二人)

割烹たぬき、景福街五—大陸(カフェー)。三井支店長 高木隆吉
君、全代理 吉田健一君

二三時〇〇分 牡丹江発 特別寝台車

黒台駅(トーチカ駅)

沿線ハ日本移住農家多シ。和服女目ニツク。

五月廿四日

八時三四分 東安駅着 後藤副官出向

大和ホテル休憩 九時五〇分ホテル発

一〇時〇〇分 第二一部隊慰問(松本中将、鈴木大佐、石垣少佐、

一〇時三〇分) 三村大佐、成清中佐、葛野中佐)

一〇時四五分 第三一部隊慰問

一一時一五分

一一時三〇分

一二時二〇分 大和ホテルニテ昼食

一五時〇〇分 当壁鎮監視部隊慰問(山形、盛岡

一五時三〇分) 方面)

一八時三〇分 師団司令部官邸招宴

(アツツ島海軍大戦果発表)

邸
一、御飯 玄米
(開拓タン)
一、果物

司令官
参謀長
参謀 芝生
部隊長
部隊長
省長
省次長

(人口)
大同元年 三、五
四四九名(日人二
三〇人)
康德元年 二二、
一三九名(日人二、
六〇〇)
同六年 二八、四
九六名(日人一九、
二四五)
同七年 約二〇〇、
〇〇〇名(同六〇、
〇〇〇名)

二〇時一〇分 大和ホテルニテ休憩。松本恒見習

士官、卜面談

二二時五六分 東安駅発

東安部隊慰問ノ節聴書。軍糧ノ自給自足、穀類以

外ハ充分間ニ合フ。養豚、養鶏、馬耕、野菜

当壁鎮迄ニ二ヶ所ノ関所アリ通行証検閲。

当壁鎮

東安ヨリ二十五里(九十八杆往復)。露ノ前線ト

我が第一線間約一二〇米(川)。我が第一望楼ト

第二望楼間約八〇〇米。此地方野雉多シ。

(牡丹江)

(基本方針)
(一)国防の見地
ヨリノ必要上
(二)日滿ヲ通ズ
ル食糧、飼料ノ増
産(三)日本農
村ノ過剩人口ノ合
理的分散

満洲国東部。北緯四四、三五度。東経一二九、三
六度二位ス。海拔二〇〇米(北海道名寄町ト同緯
度)。面積三一七平方
人口《省略》

(教育機関) 国民学校二十二校(内満系十二、鮮系九、露系一)

(交通機関) 馬車、洋車、乗合自動車

(氣候)、(温度)、(降水量)《省略》

省長 三谷清氏 次長 櫛田文雄氏

(農業) 五大農産物(大豆、粟、小麦、高粱、玉蜀黍)ノ他大麦、
水稻、陸稻、亜麻、蘇子、線麻等

五月廿五日

一二時一〇分 千振着。千振開拓団視察。

千振街長 吉崎千秋氏

千振駅ヨリ六キロ。徒歩五〇分。戸数四六七戸 一、四一人、一

家族四人位

平均年令三十五才(一二二〇〇人出産 現存六〇〇人 幼児死亡)

第一次開拓団ハ匪賊跳梁ノ為、直ニ入植地永豊鎮(現弥栄村)ニ入

ルコト出来ズ約半歳佳木斯ノ警備ニ当リ、第二次開拓団ハ既ニ苦闘

七ヶ月ニ亘リテ築キ上ゲタル七虎力ノ地ヲ匪賊ノ為ニ捨テ現在ノ千

振街(湖南營)ニ移ルノ止ムナキニ至ル。所謂試験移民トナリタリ。

両国ヲ通ジテ戦死セルモノ三十余人。忠靈塔参拝。

千振国民学校視察

生徒 一五〇名 職員 校長外六名(女一)

遠地ノモノハ宿舍 三十名 食費 七十八円

最初移民団五〇〇名入植したが匪賊ニ追ハレシ時退団セルモノ一八
〇名ニ及ビタリ。現在ニナリ帰団希望者モアルガ許サナイ。結婚当

入植計画《省略》

(内地人)

大同元年(昭七)

康德二年(昭十)

約一、八〇〇名

康德三年(昭十

一)日滿一体主要

国策トシテ二十

年百万戸計画樹立

康德四年(昭十

二)ヨリ実施(昭

十二)昭三)

(用途)

康德八年ノ実績

鉄道用 六十%

特種用 一八%

一般民需 二二%

昭和製鋼所ニ於テ

毛製鉄原料炭トシ

テ採用

(供給区域)

齊々哈爾、哈爾濱、

黒河、牡丹江、図

們(東北滿全域)

初ハ若イ者バカリノ為出産シテモ育児法ニ不馴ノ
為病氣ニサセタリ死亡サセタリシタ。従テ死亡率率
モ多カッタ。良イ医者ガ来テクレナイノガ悩ミデ
アル。

夜十川師団長招宴(軍人会館)

五月廿六日

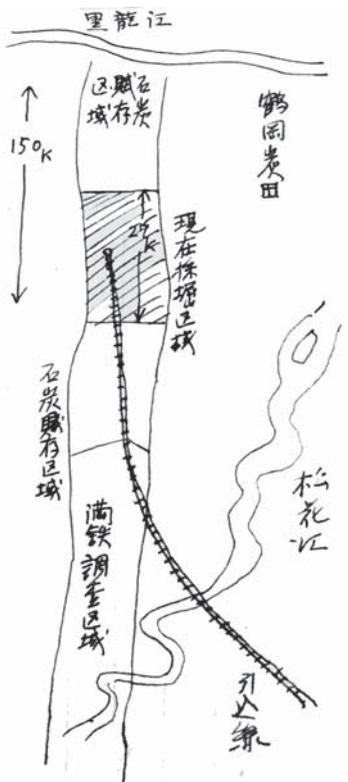
十四時四四分 鶴岡站着

滿洲炭鉱株式会社鶴岡炭業所

炭鉱事務所 三、江省鶴立県興山街。佳木斯ヨリ六

七料、牡丹江ヨリ三九八料。

沿革



図⑤ 鶴岡炭鉱図

民国三年(大正三年) 土人ノ偶然発見

全六年(〃六年) 採掘権許可。民国単独、会社組織、官商合弁ニ依

リ経営シ来リシモ營業状態良好ナラズ。

民国十八年(昭和四年) 資本金四五〇万元ノ官商合弁鶴岡煤礦公司

成立。

全二十年(昭和六年) 滿洲事变後滿洲国実業部ノ管理トナル。

康德元年(昭和九年) 滿洲炭礦株式会社創立セラ其ノ統制傘下ニ加

ハル。

康德四年(昭和十二年) 滿炭会社直管トナリ今日ニ及ブ。

(運炭鉄道)

民国十四年(大正十四年) 東支鉄道会社ト折衝シ炭礦ノ經費ヲ以テ

起工、全十六年(昭和二年) 開通ス。

お規則ニ依ルト麦酒、御酒ハ午后五時カラ。お一人様お銚子四本、ビール二本トナツテキル。料亭二十余軒、芸者二八六名、酌婦二〇〇名。遊興税（昭十四）春花代四割、酒肴二割（昭和十五年）花代二割、酒肴一割、営業時間 午后五時—十一時。

康德六年（昭和十四年）満炭会社ヨリ満鉄ニ移譲ス。満鉄準軌ニ改線シ佳木斯松花江大鉄橋ノ竣工ト共ニ図佳線トノ連絡ナリ輸送状況一変セリ。
《地質》、《炭層》、《埋蔵炭量》、鶴崗炭工業分析表
《省略》

（出炭量）年産二〇〇万吨
昭和十七年六月迄ノ出炭量（但シ滿洲事変前九〇八、〇〇〇噸ト推算セリ）八、〇六八、二七一噸。
今後ノ出炭計画、《送炭、選炭》、《坑内外保安状態》、《工人炭能率》、《工人就業率》、《工人解雇率》、《常役夫解雇率》、《工人収得》《省略》

五月廿七日

六時三〇分 牡丹江駅着。朝食大和ホテル。

八時〇〇分 牡丹江省公署視察
九時〇〇分 省長三谷清氏説明

牡丹江ナル名称ハ市街ノ東南辺ヲ環流スル河川ノ名ヲ借用セルモノナリ。此ノ河ヲ牡丹江ト名称タ説ニ二通アル。

（一）古住滿人が「流域ノ紆余曲折シテ華カナル事牡丹ノ華ノ如シ。故ニ此ノ名ヲ成スト。
（二）河ノ上流ハ老松嶺ノ一端牡丹嶺ニ其ノ濫觴

ヲナスヲ以テ牡丹江ト名称ケタリト。

元往古ノ都会テ東京城、寧安府等カラ依蘭（三姓）方面へ通ズル街道筋デ点々三四ノ農家ヲ数ヘタ一小僻地デ字ヲ黄花甸子ト呼ベリ。黄花甸子↓牡丹駅↓牡丹江トナル。人ノ出入ハ奉天、新京、哈爾濱ニ次キ多イ。牡丹江省ハ九州ヨリ鹿兒島ヲ取リタル位ノ広サナリ。日本人約十万人、滿人九万人。人口ハ住宅ノ關係カラシテ余リ増加ノ見込ガナイ。牡丹江市ヘノ移住者ハ哈爾濱、図們方面ノモノガ多イ。敦賀、新潟両港ヲ完備シ且羅新（一千トン位ノ船ガ入ラヌ）ノ施設ヲナシ運行ヲ増加シテ欲シイ。

五月ニ入りソ聯ヨリ入りタル密偵ガ四件アル（ピストン行為者）。大体一団ハ二名乃至四名位デ中ニハノモンハン時ノ日本兵ノ服装ヲシテ軍状偵察ニ来ルモノモアル。当方ノ飛行機ガ飛ベバソ聯側モ飛プト言ツタ神經質ニナツテキルガ大体平靜ヲ保テキル。

北安省方面ニ以前マクワ瓜ニコレラ菌ヲ注入シタモノガアツタ。

馬ノ炭疽病伝播行為（謀略）鮮人が多イ。白露人ハ牡丹江省ノミデ四、五〇〇名住居ル。

物資ハ未ダ自給自足ニハ至ラナイ。自給20%、不足80%。盛ニ移民ヲ行テキル。東京城ニ綜合的開拓団計画ヲ行ツテキル。東滿地区ニ於ケル開拓民ニ対スル考ヘ方モ變ハリ重点的建設ニ向ツテキル。

日本系学校
中学（四年）二、高女（二年）一
中学生九〇〇名 女学生一、〇〇〇名
一〇時〇〇分 第九四三部隊慰問 部隊長原守中將
一〇時三〇分

昼食 大和ホテル 牡丹江局長招宴
 夕食 大和ホテル 滿鉄招待
 海軍記念日デ滿洲国式典ガ行ハレル。

五月廿八日(休養日)

午前中。忠靈塔参拝。志士の碑と小林、向後の碑参拝。ロシヤ寺院見物。極楽寺、文廟見物。昼食モデルン・レストラン。三井物産支店ノ案内ニテ市内見物。夕食 ヨット倶楽部(松花江)。滿鉄招待。三井招待 透籠街二二矢倉(個人的)。

秋林デバート(北ヤスカセ)。Mars 露人経営喫茶。

(哈爾濱)

人口七三万人。北滿ノ政治、經濟、文化ノ中心都市。異国情調ヲ持ツ国際都市。東清鐵道ノ起工サレタ當時ニハ松花江岸ノ僅カニ五―六ノ民屋ガ散在スル荒漠無名ノ一漁村ニ過ギナカツタ。哈爾濱ノ歴史ハ東清鐵道ノ建設ニ初マリ、之ヲ中心トセテ露支兩國間ノ勢力ヲ不断ニ反映セシメツ、發展シタ。大滿洲帝國建国ニツイテ行ハレタ去ル昭和十年三月二十三日ノ北滿鐵道讓渡ヲ契機トシテ更ニ画期的ナ飛躍期ニ入りツ、アル。今ヤ「東洋ノ巴里」デハナク、マシテヤ「東洋ノモスコウ」デハ絶対ニアリ得ナイ。即チ今ヤ新興滿洲國ノ一心臟トシテ躍進シテキル。日本人ガ最初ニ此ノ地ニ

足跡ヲ印シタノハ明治三十一年デアル。其ノ后東清鐵道ノ建設ニ當ツテ工事請負人数名ガ入哈シタ。明治三十五年頃ニハ多数ノ娘子軍ヲ加ヘテ約六三〇人ノ在留邦人トナル。日露戰デ之等ノ人々ハ一時悉ク引揚ゲタ。大正八年頃ノ好景氣時代ニハ約四千人ヲ算シタ。滿洲事變前旧東三省政權ノ壓迫ト不況トニ依リ再ビ三千数百名ニ減少シタ。滿洲事變後ハ日滿提携ニ依リ急激ニ増加シ昭和十六年ニハ六万七千人近クニナツタ。

(伊藤博文公ノ胸像)

哈爾濱駅第一ホームニアル(明治四十二年十月廿六日遭難)。大正十四年、日露協會、居留民ノ發起ニ依リ淨財二万円ガ募集サレ製作サレタモノデアル。遭難地点標識ハ滿鉄ガ北鉄接収直後、昭和十年十二月廿六日特急あじあノ哈爾濱開通ヲ紀念シ哈爾濱鐵道局ノ手デ設置サレタモノ。胸像ヨリ前方約一〇米ノ位置ニアル。

(志士の碑)

日露戰爭當時、露軍ノ輸送路ヲ断タンガ為嫩江橋爆破ノ重大使命ヲ帯ビタ沖、横川ヲ初メ脇、中山、田村、松崎ノ六烈士ハ喇嘛僧ニ身ヲ借シ、内蒙古ヲ経テ富拉爾基附近ニ潛入シタガ露見シテ成ラズ。沖、横川両志士ハ捕ヘラレ哈爾濱ニ護送セラレ、軍事探偵トシテ此処デ銃殺セラレタ。他ノ四志士モ西ニ去リ更ニ鐵道破壊ト敵状偵察ノ使命ヲ果サントシタガ途中土匪ニ襲撃サレテ憤死セリ。此ノ六烈士ノ碑デアル。毎年春秋二季ニ盛大ナル招魂祭ヲ举行ス。附近ニ同じク日露戰爭當時軍事探偵トシテ此ノ地ニ銃殺サレタル小林、向後ノ二烈士ノ碑モアル。

(市街)

(十区ニ別ル)
 埠頭区、プリスタン、
 南岗区、馬家溝区、
 伝家甸区(東西)、
 香坊区、スタールハ
 ルビン、新陽区、
 廟郷区、太平区、
 松浦区



図⑥ 哈爾濱地図

「キタイスカヤ」ノ両側ニ立竝ブ商店ノ殆ンドガ
 露人経営デ片言デ操ル日本語モ面白ク、其ノ商フ
 品々モ毛皮、洋品類其他、土産物ニ適スルモノモ
 少クナイガ、思ヒノ外少クナツタ。キヤバレーハ
 現在埠頭区軍管街ノ「フアンターヂヤ」ガ唯一デ
 露満人ノダンサート社交ダンスガ出来ル。洋酒ノ
 他ニロシヤ料理モアル。毎夜九時頃ヨリ賑ツテキ
 ル。此ノ外二―三流ノモノトシテ「キタイスカ
 ヤ」ニ「カズベック」「ロンドン」「モスコ」

「オケアン」「ドラゴン」等ガアルト云フ。露人ノ妓館ニ「ローザ」、
 「ニツツア」等二―三ノモノガアリ、いかゞわしい芸ガ演ゼラレタ
 コトモアル。

支那料理(埠頭区) 宴賓楼、新華楼。(伝家甸区) 新世界、厚德福
 露西亜料理 満鉄厚生会館、モデルン、ヨットクラブ、マルス、ヴ
 クトリヤ、観光亭

コーカサス料理 タトス、ロゴジンスキー、イペリヤ
 カバレー フアンタージア、ポーモンド

映画館 モデルン、パラス、オリアント、アジア、平安座、哈爾濱
 会館、大勝劇場

日本人ノ多ク住居スルノハ石頭道街、地段街、売買街

五月廿九日

朝食車中 給仕女ハ確カニ白系露人ノ相ノ子ト見ル。中食車中 ロ
 シヤスープ特ニ美味。

一九時五六分 黒河駛着。自動車ニテ黒龍江岸ノレストラン、サハ
 リヤン楼上ニ於テ特務機関長ノ招宴。ロシヤ料理(ロシヤ人経営)
 キヤビヤ、チブリヤ、ウオツカ、野菜ノ造花。

「ネオンサイン」ヲ以テ「サハリヤン」ト記シ対岸ソ聯ニ対シ宣伝
 ニ努ム。「サハリヤン」トハ露語デ黒龍江ノ意トノコト。

二〇時三〇分 宿舍常盤屋ニ一泊。三階建ナルモ余リ立派ナラズ。
 主人ハ島根県人。

日本人 三万余モ居ル

五月三〇日

「モーターボート」ニ乗ジ黒龍江ヲ下リ対岸視察。
兵舎、バラシユート塔、望楼等ヲ見ル。昨今女兵
ガ増加シタルトノコトナルモ遂ニ見カケズ。

五月卅一日

七時三七分 三棵樹着

滿洲畜産工業株式会社哈爾濱工場視察。

所在 哈爾濱市東南店街七四

昭和十二年六月畜産加工会社トシテ創設セラレタ。
全十三年下半年カラ操業開始。綜合加工経営ヲ目
的トシ昭和十五年三月滿鉄ヨリ分ル。

昨年度生産 ソーセイジ、ペーコン 二五万トン

罐詰 六〇万トン

ラード類 五万疋

(博物館見物)

白系トハ帝政ロシ
ヤノ住民ニシテ今
尚故郷的意識ヲ有
スルモノ

新市街ノ中央寺院ニ向ヒ合テ在ル。大陸科学院ノ
所管。商工部、人類学部、生物学部、医学部等ニ
分ル。東清鉄道建設当時カラ蒐集サレタ貴重ナ滿
蒙関係ノ参考資料ガ網羅サレテキル。

一〇時〇〇分 特務機関長訪問(機関長 三室中
将)

在滿白系民族別表

大口シヤ 六九二九二人

ユダヤ 一六五四

タタール 一五四〇

ウクライナ 一二五一

ポーランド 六一〇

アルメニヤ 一九三

グルシヤ 一四六

ラトウイヤ 五五

リトワニヤ 四三

エストニア 二〇

其ノ他(ドイツ、チェコ、ブリヤド、

トルコメン、ギリシヤ、オセチン、チエレミス) 二二三

七五〇五七

白系露人ハ滿洲トシテハ外国人扱ナルモ食事其ノ他交通等ハ滿人ト
同様ニ扱ハレテキル。協和会ヲ通シテ軍人教育ヲ施シ(減ソノ精神
訓練)現役軍人ガ指導シ、其ノ内優秀ナル者ヲ特務機関デ指導訓練
ヲシテキル。

農牧ニ従事スルモノハ「カザツク」ガ多数デアル。白系露人ハ農村
デハ増加、都会地デハ減少ノ傾向。露西亞人ハ〇下四〇度位デモ自
動車ノ機械修理ヲ無手袋デヤル。

六月一日 一〇時四〇分 哈爾濱発。終日車中ニ在リ(車中九〇

(満洲里) 宮ノ台 度)

方展望ニ最も良イ。六月二日 一三時一五分 満洲里着。八二七部隊

六宮様御立所。慰問。部隊長金田一少佐。

人口 六、〇〇〇人

国境線視察。寒風耳ヲ刺ス(五〇度以下)。監視

隊(ソ聯側)ハ見エル場所ニアリ。日本部隊デモ

此ノ方面デハ「ラクダ」ヲ使用シテキル。

夕食車中。海拉爾駅 一九時二八分着。自動車ニ

テ大和ホテル着。泊リ。米田民政長官等招宴。

(病氣) (ホロンバイルの名稱)

「バイカル湖」ト「ホロン湖」トノ名稱ヲトリホ

ロンバイルト云フ。又バルグート族ガ勢力アリ南

下シタノデバルガ地方トモ云フ。

六月三日

軍ノ自動車デ市内見物。

一、海拉爾神社参拝 二、忠靈塔参拝 三、七〇

三部隊慰問 四、三七一部隊慰問 五、病院慰問

(二等車)

昭和十三年設立サレ、「ノモンハン」ノ時千人位

入院シタ。収容人員約六千名位。平均五〇〇名。

現在四〇四名(内将校八名)。

中食 大和ホテル。

第二病院慰問。二〇〇名位収容(大体病氣ハ前病

院ト同ジ)。

郊外ニ自動車ヲ馳セホロンバイルノ拡原ヲ見ル。

大和ホテルニ於テ司令官ノ招宴。

十九時二十八分 海拉爾発。

六月四日

二三時四〇分 新京着。宿舎 第一ホテル着。入浴

六月五日

新京滞在。

九時〇〇分

新京神社参拝

九時一五分

忠靈塔参拝。大和ホテルニテ休憩

一〇時三〇分

宮内府ニ於テ満洲国皇帝ニ单独接見

一〇時五〇分

張総理ト共ニ黙禱(山本元帥国葬時間)

一二時〇〇分

昼食 大和ホテル

一三時〇〇分

市公署着。国都建設状況聴取。屋上ヨリ市内ヲ望ム。

一四時三〇分

建国忠靈廟参拝

一四時五〇分

第一ホテル着

一八時三〇分

ホテル別館ニ於テ日比野君等数名ト懇談(夕食)

(新京特別市)

首都新京ハ建国ノ直前迄一般ニ長春ト云フ名デ知ラル。大同元年三

月一日三千万民衆ノ熱烈ナル要望ニ基キ歴史のナ建国宣言ガ発セラ

レ満洲国ハ茲ニ完全ナル独立国家トシテ生誕シタ。奉天商民ガ所謂

文治派ト提携シテ地方自治委員会ガ結成サレタノハ柳条溝事件ヲ距

(滿洲ノ原住民)

雜居

漢族(滿漢全

土)

滿洲族(滿洲東

半二分數)

蒙古族(興安四

省ノ附近)

(全滿)

日本人(關東州

朝鮮族(間島省

内、東滿)

露西亞人(哈爾

濱中心)

ゴリト族

オロチン族

ソロン族

ダホール族

バルガ族

ツングース族

ブリヤド族

オロツト族

チブチル族

ヤクート族

ホルチン族

タタラ族

オルト族

(イ) 興安北省、

東省、濱江、龍江

地方、黑河

ルコト六日目ノ実ニ昭和六年九月二十四日ノコトデアツタ。此ノ奉天ヲ中心トスル獨立運動ハ日滿有志ノ協同ノ裡ニ其ノ後急速ニ拡大サレ昭和七年二月十日、東北行政委員會ノ結成ヲ見タ。而シテ獨立宣言ヲ中外ニ發表スルニ至ツタ。二月二十五日、新國家ノ組織大綱ガ決定サレ新國家ノ首都ハ長春ト奠メラレタ。三月一日、新國家ノ年号ヲ大同ト定メタ。三月十日、國務院布告第一号ヲ以テ國都新京ヲ中外ニ發表シタ。三月十四日、國務院布告第二号ヲ以テ長春ハ新京ト改稱サレタ。當時ノ長春ノ人口ハ十二万ノ地方的都市ニ過ギナカッタ。

國都建設第一期事業

大同元年三月、滿洲建國ト同時ニ國務院國都建設局ガ遠大ナル抱負ヲ以テ創設サレタ。其ノ計画ハ徒ニ龐大ナルモノヲ以テ理想トセズ。政治、經濟、文化ノ中心都市トシテ人口五十万ヲ包容スルヲ以テ基準トシ、都市計画區域トシ一〇〇平方杆、近郊並ニ比較的發展ノ急ヲ要シナイト認ムル地域ハ之ヲ除外シテ先ツ建設事業區域トシ一〇〇平方杆ヲ設定施行スルコトトシタ。一〇〇平方杆ノ中ニハ既成市街タル旧城内、旧商埠地、滿鉄附屬地、寬城子等ガ含マレテキルノデ實際上ノ建設地積ハ約七九平方杆デアル。

*土地使面積の内訳(《省略》)

市街ノ建築物ハ特殊ノモノヲ除キ、高さ二〇米ト限定。工事地帯ハ總テ市街ノ北方ニ設定サレルノデ、西北方ニ吹ク四時ノ風ト伊通河ノ水流ニ依リテ工場地域トシテ理想的デアルノミナラス市民ガ煤煙ト騒音ニ苦シメカラ免カレル。新市街方面ノ下水管ハ二ツノ系統ニ分レ、一ツハ雨水ノミヲ集メテ窪地ノ公園ニ造ツテアル池ニ注入シ、他ノ一ツハ汚水ダケヲ集メテ、伊通河ニ放流サレルコトニナツテキルガ、放流口附近ニ汚水処理場ヲ設ケ一応淨化シテ放流サセル。

新市街ニ散在スル公園其ノ他ノ緑地面積ハ、全市ノ一六%ニ相当シ、正ニ世界一ヲ誇ルホドニ豊富デアル。住宅地ノ裡ニ四米ノ露地ヲトリ、架空線、地下埋藏物(水道管、瓦斯管等)乃至電氣ノケーブルヲ設置シ、万一故障シ、万一故障ガ起ツタ場合ハ建造物ニ影響ナク、其ノ部分ダケ修理ガ出來ル様ニナツテキル。市街ノ周圍ニハ環狀大防風林設置ノ計画ガアル。

(水道)《省略》

國都公園、広場及街路名ハ建國ノ大理想ヲ如實ニ表現シ得ルモノ、国内各地ノ名称中含蓄余韻アルモノ、音調宜シク且記憶シ易キモノ、從來ノ困線等ヲ考慮シ選定。

南北ノ街路ヲ「街」、東西ヲ「路」。其ノ中幅員三八米以上ノ街路ニハ「大街」「大路」トス。補助街路ハ最寄ノ街路名ヲ採リ「何々胡同」ト稱ス。

(新情勢ニ応ズル対策)

1、人口増加ニ伴フ住宅建築ノ激増 2、住宅問題解決ニ伴フ諸施設ノ増加 3、各部門ニ亘ル國策諸機關ノ増設 4、諸機關ノ新設

濱湖市

斯市、遼陽市、本
齊々哈爾市、佳木

阜新市、錦州市、
營口市、牡丹江市、

（十万人人口上ノモ
）

鞍山市 二二三、
八六五

〇〇〇
吉林市 二三六、

撫順市 二六九、
九一九

安東市 三一五、
二四二

新京特別市 五五
五、〇〇九

哈爾濱市 六六一、
九八四

八〇一人
奉天市 一二三、五、

（主要都市人口）

（氣候）、（温度）、（平均気温）（住民）総人口《省
略》

京特別市ノ市政ハ著シク膨張シ、名実共ニ完全ナ
ル統一ヲ見ルニ至リタリ。

了ヲ以テ國務總理ノ管理ヲ離レテ特別市公署ノ外
局トシテ特別市長ノ管理下ニ置カル、ニ及ブ。新

康徳五年一月、総務庁国都建設局ノ第一期事業終
了ヲ以テ國務總理ノ管理ヲ離レテ特別市公署ノ外

（治外法權撤廢）《省略》

伸展ニ応ズル国都的施設ノ整備

二伴フ市街地ノ外部ヘノ發展 5、急速ナル国力

（文教）（康徳八年）
取者数ガ登録サレテキル。

織ニ依リテ組合員数、馬車、人力車台数、車夫、
馭者数ガ登録サレテキル。

業組合ガ存在シ、警察總監ノ認可ヲ経タル組合組
業組合ガ存在シ、警察總監ノ認可ヲ経タル組合組

大同二年以来、新京ニハ首都乗用馬車、人力車營
業組合ガ存在シ、警察總監ノ認可ヲ経タル組合組

ヲ新京特別市ガ出資シテ居ル。新京交通会社ノ經
営、馬車、洋車、快車（三輪車）

市内バス及電車ハ総資本金三百万円ノ内其ノ半額
ヲ新京特別市ガ出資シテ居ル。新京交通会社ノ經

（交通機関）

（新京特別市組織） 歴代市長 市税負担額 康徳
八年度一般会計歳入出、市債《省略》

（大陸科学院） 新京特別市大同大街

滿洲国ノ資源ノ開発利用並ニ産業各部門ノ急速ナル伸張ヲ図リ且滿
洲国ノ科学研究ヲ統制スル為康徳二年三月設立サレタ綜合的研究機
関デアリ、國務總理大臣ニ直屬セリ。

《中略》

六月六日

大和ホテルニ於テ青柳糧政局長ヨリ食糧事業ヲ聴取。

滿洲国ニ於ケル食糧事情

本年生産 食糧、飼料、其ノ他 一七六〇万トン（昨年一八六四万
トン）

輸出 一五〇万トン（大豆、大豆粕、糧穀）

本年度 軍（関東軍）四割要求増

公立初等学校（二八二級） 二六校 } 三四校
私立初等学校（二九級） 八校 }

公立中等学校 四校 } 七校
私立中等学校 三校 }

師道高等学校 新京特別市西朝陽路

新京畜産獣医大学 新京特別市寛城子

新京政法大学 新京特別市南嶺

新京工業大学 新京特別市南嶺

新京医科大学 全上

留学生予備校 新京特別市吉林大街

中央師道訓練所 新京特別市南嶺

滿洲国ノ資源ノ開発利用並ニ産業各部門ノ急速ナル伸張ヲ図リ且滿
洲国ノ科学研究ヲ統制スル為康徳二年三月設立サレタ綜合的研究機
関デアリ、國務總理大臣ニ直屬セリ。

全日本ヨリモニ割要求増(大豆、大豆粕、糧穀)
一七七万トン出ス

収売契約(先賃契約)自由売買契約ニ依リ一昨年
ト同ジ位(五五〇万トン)ハ出ルガ六六五万トン
位収売スル要アリ。故ニ自然徴発経済トナル。神
的協力ニ努力セントス。

一八、〇〇 軍司
令官々邸(軍司令
官招宴)

1. 副県長会議、2. 協和会、3. 綿布特配(一
トン対一五キロヤード)
集団出荷ヲ行ハシメル

不可能数量 三〇万トン(買付六一五万トン)。
之ヲ消費規整ニヨリ補フコトニスル。

(一) 混食断行(大豆二割、小麦粉一割)、(二)
外食券発行(通帳制ニヨリ重複者ヲ除ク)一割位
浮ク、(三) 軍人外食券発行

(配給料) 一人一〇〇キロ

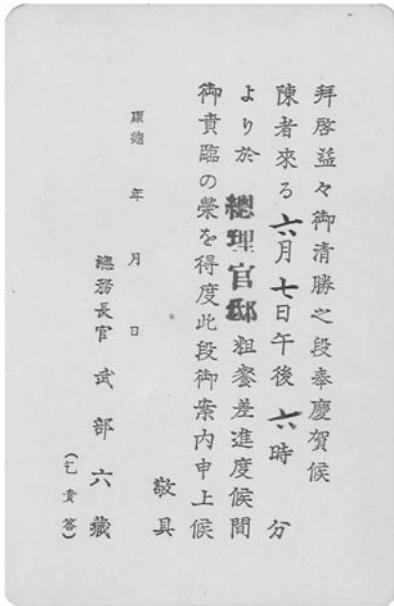
満系ハ昨年ノ実績程度ニ減ラス(治安方面ニ影響
スル)。重労働者ニ対シテ優先的ニ配給量ヲ決ス。
昨年ハ不均等ノ点アリシ故本年度ハ各省共人口調
ヲ行ヒ公平ヲ期スル。

《中略》

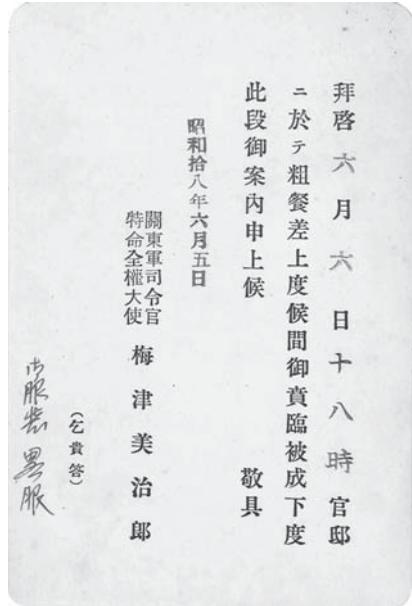
六月七日

九、四〇 宿舍発。一〇、〇〇 国務院着。一一、

五〇 国務院発(懇談)。



図⑧ 満洲国総務長官 武部六蔵の招待状



図⑦ 關東軍司令官 梅津美治郎の招待状

撫順炭鉱ハ奉天ノ東方約三五料ニアリ渾河ヲ隔テ、撫順城ニ相對ス。

撫順炭ハ何ノナ植物カラ出来タカニ付テハ色々ノ説ガアル。全部蘇鉄カラ出来テ居ルト考ヘタ学者モアル。

然シ、炭層ノ上部ヲ厚ク覆フテキル油頁岩ノ中ニハアメリカ松ノ化石ガアリ、又炭層中ニハ針葉樹ノ樹脂ガ變質シテ出来タト考ヘラレル琥珀炭ノ薄層ガアツテ矢張アメリカ松カラ出来タノガ本當ト考ヘラレテキル。

(琥珀)、(刺灘土岩(將來))、(石炭液化工場、(製鉄工場)《省略》)

十三時 國務院ニ於テ武部長總務長官ト懇談

《滿洲国基本国策》《省略》

一四、〇〇 軍人会館着(軍部ト懇談)。一六、〇〇 宿舍着。一七、四〇 宿舍発。一八、〇〇

總理官邸(總務長官招宴)。宿舍(第一)。

(武部長官談)

軍ノ指導ハ少クトモ大戦期間中ハ必要デアル。現在軍トハ非常ニヨク行テキル。治安ハ熱河省ヲ除キ他省ハ著シク民心ノ問題モ良クナツテキル。滿人ハ日本ガ勝ツトモ敗ケルトモ思ツテキナイ。只日本人ニ着イテキル方ガヨイト云フ氣持デアル。

(古河次長談)

軍經濟 三分一強。日本經濟 三分一弱(滿鉄、電聽、航空)。財政二億ノ予算(純經費)。資金滿系六割。日系四割。生産資材ハ親資材のニハ殆ンド日本ニ依存セズニ済ム様ニナツタ。消費資滿系七割。日系三割。勞務(八〇万)北支ヨリ四割。滿人六割。昨年度ハ鉄ヲ五〇万トン日本へ、本年ハ一一〇万トン。農産物 大豆八〇万トン。糧穀三五万トン。現地兵糧ハ殆ンド自給ヲ得ル。一七〇〇万トンヲ日支ヘ出シテキル(食糧)。重工業 鉛ハ日本デ用フル大部分ヲ引受ケルコトガ出来ル。銅ハ滿洲ハ不足デアル。一ヶ年一万吨

ン要ス。綿ハ糧穀収買上必要デアル。六割ヲ外ヨリ入レル必要ガアル。農産物、石炭ハ滿洲ガ安イ。

日滿両民族一体ノ新民族運動ヲ起シテキル。滿人ノ現在ニ於テハ国家觀念ハナイガ国ヲ守ル程度ニ信念ガ出来タ。

六月八日

一五時四二分 撫順着

南滿洲鉄道株式会社撫順炭鉱《省略》⁽¹⁹⁾

六月九日

鞍山鉄鉱区(製鉄場視察)《省略》⁽²⁰⁾

六月十一日

羅南着。十三時—三〇分 羅南司令部着。訪問

軍食ノ現地生産ヲ行ツテキル。農業方面ニモモツト改善ヲ要スル点多々アルガ、要ハ実行者ガナイ。馬糞等モ相当利用価値ガアル筈ナルモ種々ナル点カラ実行サレズニキタ。最近ニナリ田中中尉ガ初メテ此ノ馬糞ヲ利用シ土地ヲ改良スルコトニ成功シタ。ノデ現在田中自ラ先頭ニ立チ馬糞ノ利用ニ従事シテ成績ヲ挙ゲテキル。

一三時四五分 羅南陸軍病院慰問。二等甲病院。収容人数三〇〇名、胸部疾患ガ多イ。昨年カラ「発シンチブス」ガ流行シ出シタガ、之ハ多分滿洲方面カラ入りタルモノト思ハル。分院ハ朱乙ニアル。本病院ハ内地ノ管轄ニアル為慰問ガ少ナク、肉親者スラナカク、来ナイトノコトデアル。

(日程)

- 一二、一〇 清津
- 一三、一五 清津駅発。一二、一五
- 三五 師団司令部
- 着。一三、三〇
- 師団司令部発。
- 一三、四〇 羅南
- 陸軍病院。一四、
- 四〇 全病院発。
- 一四、五〇 威鑑
- 北道庁。一五、
- 〇〇 道庁発。
- 一五、二〇 日鉄
- 着。一五五〇
- 日鉄発。一七、
- 二〇 朱乙分院
- 着。一七、五〇
- 同分院発。一八
- 〇〇 朱乙千歳
- 館。二三、一五
- 旅館発。

(満洲慰問行
旅行杆程)

日本製鉄工場視察。工場ハ百万坪。茂山ノ粉鋸
(三五%)ノモノヲ入レテキル。茂山ヨリ六〇キ
ロノ距離ニアル。溶鉱炉二本(各五〇〇トン)。
将来三本ニスル計画。

朱乙

朱乙陸軍病院分院慰問。前身ハ明治四十三年十二
月デ當時ハ二四名ヲ收容。初メハ民間旅館ヲ使用
シタ。昭和八年十二月、常設分院ガ設立サレタ。

現在五十八名。内将校三名收容中。温泉療法(温
泉ハ一時間五〇石ノ湧出ガアル)。温度ハ五〇度
—四〇度位(單純泉)。患者ハ炊事、掃除等一切
行ハセラル。

朱乙温泉着(一八時〇〇)。旅館 千歳館入浴。

威鏡北道ノ招宴。高崎男爵、発熱ノ為山根男爵看
病ノ為残ラル。

- 東京—釜山 一、三二八杆
- 釜山—新京 一、五三〇
- 新京—図們 五二八
- 図們—東安 五二九
- 東安—鶴岡 四四六
- 鶴岡—哈爾濱 七三七
- 哈爾濱—黒河(往復) 一、二七八

哈爾濱—滿洲里(往復) 一、三七二

哈爾濱—図們—京城 一、七〇二

京城—東京 一、七六九

新京—湯崗子(往復) 八一〇

撫順線(往復) 一〇六

鎮海線(往復) 一〇四

計二二、七三二

滿洲国行政機構、地方行政、協和会、聯合協議会、滿洲国ノ財政

《省略》

皇軍慰問關係軍並官庁人名録⁽²¹⁾《省略》

滿洲国ノ物価、生活費指数、滿洲度量衡対照表《省略》

イェライシヤン
夜来香 晩香玉トモ言フ。夜ニ入テ芳香ヲ放ツガ白昼ハ少シモ香
ラナイ。花ハ女ノ体臭ト曖昧デ聞クト言ハレ、女ノ髪ニ夜来香ヲ挿
ストハ悪人ノ意ヲ表ハスト云フ。

リュウハイ
劉、海ハ既婚ノ女ガ好ンデ結ダ髪ノ型デ額ノ前ニ垂ラス前髪。

ワシシレン
鴻蛋験ハ日本ノ瓜実顔トデモ言ハレル支那デハ最上ノモノトサレル。

(滿洲七珍) 一、長さめ 二、大鹿(ハンダハン)ノ鼻 三、黒雷

鳥 四、熊ノ手(タナガヒ) 五、朝鮮人參 六、川真珠 七、

(滿人三不ノ原則) 不言、不語、不買責任

滿洲国ノ畜産⁽²²⁾(省略)

団長も十日たてば病院長
出す度に勸進帳に穴が増へ
侯爵の喉ぬる看護婦ふるへてる
白頭山一寸押んで野糞哉
さもあらん侯爵起すいびきなり
軍犬が忠義のほどを見せすぎて
銃声に雉スターを切る気なり



図⑨ ファイルに貼り込まれたホテルのラベルなど

弁天に肩た、かせてい、気なり
手ごたへのあつた雉歩いてる
銃口と違った方へ雉は逃げ

北滿の皇軍慰問を無事二了へ朱乙の宿で温ま湯に入る

●本史料紹介にあたり、原所蔵者である稲垣長利氏のご理解と関連史料の提供を得ました。ここに記しお礼申し上げます。

註

- (1) 「貴族院在滿將兵を慰問」〔朝日新聞〕一九四三年四月二十日。
- (2) 鳥羽藩稲垣家は、一七二五年(享保一〇年)に稲垣昭賢が入封して始まり一八七一年(明治四年)の廢藩置県まで存続した。
- (3) 「傷病兵慰問貴族院議員団日程 貴族院代表鮮滿皇軍慰問録(昭和十八年五月)」に挿入された本人自筆の履歴書によつた。
- (4) 鳥羽市所蔵文書は一九九二年に稲垣長利氏から寄贈されたもので、二〇一二年には鳥羽市指定文化財となっている(鳥羽市指定文化財：二〇一五年九月二十日閲覧)。
- (5) <http://www.city.tobanmie.jp/kikaku/tonkei/5kyouutiku/documents/413shih3.pdf#search=%E9%B3%A5%E7%BE%BD%6B5%B8%82+%E7%A8%B2%E5%9E%A3%E5%AF%B6+%E6%96%87%6E66%9B%88> また、明治大学所蔵文書は刑事博物館が古書店から購入した。詳細は伊能秀明・久住真也「明治大学刑事博物館所蔵「志摩国鳥羽藩稲垣家文書」について」〔明治大学博物館研究報告〕5、二〇〇〇年)を参照。
- (5) 満洲視察旅行や満洲修学旅行に関しては、高媛「戦地から観光地へ―日露戦争前後の「満洲」旅行―」〔中国21〕(二十九号、二〇〇八年)、宋安寧「一九〇六(明治三十九)年における「満洲教員視察旅行」に関する

- 研究」(『研究紀要』(第一巻第二号 神戸大学、二〇〇八年)、拙稿「근대 일본의 만주 수하어행과 만주어식」(『満洲研究』第十六号、二〇一三年)、「満洲を旅した学生たち―旧制学習院の満洲修学旅行を事例として」(福井憲彦監修 伊藤真実子・村松弘一編『世界の蒐集―アジアをめぐる博物館・博覧会・海外旅行』山川出版社、二〇一四年)などを参照。
- (6) 「両院議員の従軍」(『東京朝日新聞』一九〇四年四月七日)。
- (7) 「京釜鉄道開通式」、「議員の戦地視察」(『東京朝日新聞』(一九〇五年五月二十七日)。
- (8) 朝鮮から満洲を経て北京、上海、蘇州などを巡った。詳細は千葉功監修、尚友倶楽部・長谷川惇編『貴族院・研究会写真集』(芙蓉書房出版、二〇一三年)所収「貴族院議員の海外視察」を参照。
- (9) 寺光忠による満洲旅行日記は国立国会図書館憲政資料室の「寺光忠関係文書」(第二次受入分)に含まれている。本日記の分析を含めた貴族院議員の満洲視察については別稿を期したい。
- (10) 出淵勝次(でぶちかつじ 一八七八―一九四七)は明治、昭和の外交官・政治家。外務省に入省後、中・独・米等に赴任し、アジア局長、外務次官(幣原外相)を歴任。駐米大使となり、一九三六年貴族院議員に勅選、戦後は参議院議員に当選するが病気のため登壇できず死去した。
- (11) 土岐章(とぎあきら 一八九二―一九七九)は大正、昭和期の政治家。子爵。旧沼田藩の当主として生まれ、東京帝国大学理科大学を修了後、日本食糧株式会社取締役などを務め、農商務・商工・陸軍省糧秣本廠などの嘱託を歴任。一九二八年貴族院議員となり、万国議院商事会議に出席。斎藤内閣・岡田内閣陸軍政務次官。なお、満洲視察以外に土岐が参加した中国視察旅行に関しては前掲『貴族院・研究会写真集』を参照。
- (12) 蜂須賀正氏(はちすか まささうじ 一九〇三―一九五三)は昭和期の鳥類学者・探検家。旧阿波徳島藩に生まれ。一九三三年に貴族院議員。海外の鳥類研究者として知られ、日本鳥類保護連盟会長などを務めた。
- (13) 高崎弓彦(たかさぎ ゆみひこ 一八八〇―一九五八)は昭和期の政治家。父親は元老院議員や東京府知事を務めた高崎五六。一九一八年より貴族院議員。一九三三年、三七七、四一年の満洲視察旅行にも参加し、通算四回渡航している。
- (14) 山根健男(やまね たけお 一八九六―一九六八)は昭和期の政治家。江戸時代は長州毛利家に仕え、父親の武亮が日露戦争の功で男爵。米田才朗(米田才学)卒業後、東京市社会局嘱託となり一九三二年より貴族院議員(公正会所属)。
- (15) 洪沢金蔵(しづさわ きんぞう)は明治、昭和期の実業家・政治家。多額納税者議員として交友倶楽部所属。一九三三年の満洲視察にも参加。
- (16) 寺光忠(てらみつただし 一九〇八―一九九六)は昭和期の政治家・弁護士。東京帝国大学法学部卒業後、川越少年刑務所所長。一九四三年より貴族院議事課長。戦後は参議院議事部長、参議院法制部長を歴任。法制審議会委員や法律扶助協会東京支部長等を務めた。
- (17) 正しくは龍頭山神社。神社の起源は倭館の置かれていた時代にさかのぼるといふ。
- (18) 正式には「満洲国基本国策大綱」。一九四二年二月に発表されたもので、中長期的な基本的な国策が示されている。根本方針をはじめ、政治・民生・経済・教育などあらゆる分野が網羅される。経済分野に関しては一九三三年の「満洲国経済建設綱要」を修正・発展させた内容となっており、重軽工業の発展に重点が置かれた内容となっている。本大綱は当時の新聞にも掲載されているため本史料紹介では省略した(例えば一九四二年の「朝日新聞」は十二月九日・十日の二回に分けて全文を掲載)。
- (19) 撫順炭鉱の沿革、出炭量、埋蔵量、露天掘りの方法、坑内事故救護施設、オイルシェールについてなどの記載があるが、基礎情報にとどまるため省略した。
- (20) 鞍山製鉄所(昭和製鋼所)の沿革、採掘地、作業員数などの基礎情報は省略。
- (21) 慰問旅行中に歓待を受けた組織の関係者、懇談した人物の一覧。当該

期の朝鮮・満洲における人物の一覧として重要ではあるが、多くは本文中にも登場することから省略した。

(22) 数ページにわたり畜産業の概要等が記されており、畜産学者としての稲垣の関心の有り様を知ることができるが、貴族院の満洲旅行について紹介するという本史料紹介の趣旨から本項目は省略した。